

社会に価値ある企業をめざして

はじめに

東日本大震災がもたらした災害は、現代社会が抱えていた多くの問題を再認識させられる機会ともなりました。個人の生活の見直しを余儀なくされた電力エネルギーの問題、ビジネス環境を支えるサプライチェーンの脆弱さ、高齢化社会、地域格差、政治や法制度など将来世代への先送りが許されず、自らの課題であるという自覚が必要なものばかりです。世界的にも欧州債務問題に起因する金融不安や社会不安、タイでの洪水をはじめとする異常気象など、認識すべき本質的な課題は同様です。CSRの取り組みは、このような厳しい社会状況において、企業が対処すべきことを明確化する重要な取り組みであると考えています。

さらに、当社が事業とする医薬品業界に目を向けると、医療の進歩に伴い、より高品質の医薬品が求められる一方で、過去最高水準で推移している医療費の抑制など、社会福祉といった側面から在り方が問われており、あらゆるステークホルダーとの対話を通じた対応も求められています。

CSRを通じたイノベーション

このような中、医薬品を安定して患者さまにお届けするという社会的責任を果たしていくために、社会が何を望み、当社に何ができるのか、常に考えながら企業改革を続けていくことが必要になっています。グローバル化した社会にあっては、価値観やその実現方法は多様化していますが、CSRは企業変革をもたらす一つの手段になると認識しています。マーケティングにお

けるソーシャルマーケティング*、製品開発におけるユニバーサルデザイン*、製造工程におけるゼロエミッション*やCSR調達*といった新しい概念がCSRを通じて生まれているのはその証といえます。

当社が、社会にとって存在価値のある企業であり続けるために、日頃の業務の中にCSRを取り込み、そこから新しい価値を生み出していくことは、まさに現在の社会要請に応えることと同一のものであると考えています。「世界の人々のQOL向上」という企業使命を追求しつつ、社会に求められる企業を目指し変革を続けていくためにもCSRを企業活動の重要な柱として取り組んでいかなければなりません。

無形の資産とCSR

株や資金などの「有形の資産」は、その時代の政策や経済情勢によって、価値が変化します。企業やその商品に寄せる安心感や信頼感といった「無形の資産」は、社会や環境が変化しても、安定して企業に好ましい影響を与え続けます。

この「無形の資産」は、社会のニーズを踏まえた製品の開発や誠実な事業活動に加え、スポーツ支援、文化事業などを通じた企業市民としての社会貢献やステークホルダーの皆さまとの様々なコミュニケーションなど、CSR活動を通じて形成されていくものと考えています。

当社は、これまで行ってきたCSR活動に加え、さらに、ステークホルダーからの期待や当社への影響度などを加味して重点的に活動すべきCSR課題を取り上げました。CSR活動に拡がりや深化をもたせ、より多くの無形資産形成に寄与できるよう取り組みをはじめとしています。この活動

は、国内にとどまらず海外子会社を含めてグループ企業全体で取り組んでおり、グローバル社会にとって価値ある企業をめざしています。

豊かな自然を守るために

私たちは、自然の恵みである水や空気、穏やかな気候をさほど意識せず、日常生活あるいは経済活動の中で使ってきたように思います。しかし、遠くない将来に100億人を超えると見られる世界人口、新興国の経済発展など自然のもつ許容を超えた負荷は、気候異常や自然災害のような形で警鐘を発しています。私たちの生活あるいは事業活動が、次の世代にも継続できるものにするためには、ステークホルダーの一つである自然環境とどう向き合っていくべきか真摯に考えることが重要となっています。

古来様々な動植物の恵みを享受してきた医薬品産業は、かけがえのない自然の恵みをまもり事業を継続していくことが、他にも増して重要なことといえます。

当社は、これまでエネルギー効率の良いユーティリティ設備の投資はもとより、従業員全ての意識を高めるための啓発活動を図ってきました。また、製品輸送の見直しや地球温暖化ガスの排出削減に努めてまいりました。

これからも、豊かな自然を次の世代に引き継ぎ、人々のQOL向上に寄与する製品を提供できるよう、さらに環境負荷の低減に努めてまいります。

皆さまのご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

中富 博隆

*ソーシャル・マーケティング…社会公共志向のマーケティング *ユニバーサル・デザイン…多くの人が利用可能なデザイン
*ゼロ・エミッション…排出をゼロにする取り組み *CSR調達…CSRに配慮した取引